

# Taketa City Gikai News

NO.34

平成26年5月1日発行

たけた 市議会だより

- 会派代表質問 ..... 2～5
- 一般質問 ..... 6～9
- 予算特別委員会を終えて ..... 10
- 3月の定例会 議決結果 ..... 11～12



岡城桜まつり

# 市長の施政方針に 各会派が代表 質問

平成26年第1回定例会は、3月5日から3月26日までの22日間の日程で開かれました。  
3月12日、5会派の代表者が代表質問を行いましたので、その内容を要約してお知らせします。  
なお、原稿は質問議員本人が執筆しています。



仁政クラブ

岩屋 千利



竹田市における各種人口増加対策の取組について

**問** 農村回帰宣言市の標榜に関係する空き家バンク制度並びに子育て定住促進住宅建築等の成果は。

**企画情報課長** 市内の空き家登録は165件、空き家バンクの利用希望者657人、子育て定住促進住宅には6世帯25人が移り住んでいる。

**問** 企業誘致の状況、地元採用者は。  
**企画情報課長** 合併前の誘致企業は6社115人、合併後は4社36人、再スタートした4社を含めると延べ8社130人で地元採用は62人。

**問** その他の取組で農村回帰や定住促進につながる人口増加対策の状況は。  
**健康増進課長** 健康一直線、子育て一番宣言市等の取組が若者世代を中心とした定住促進につながっている。

**農政課長** 市の認定農業者数は649人で農業就業人口の15・5%を占め、人数、比率とも県下で一番高い数値。今後とも農業後継者、新規就農者の安定確保に努めていきたい。

**問** 合併後9年が経過、これまでの人口や世帯数の推移と今後の動向は。

**市民課長** 本年4月末の人口は2万3979人、世帯数は1万4511世帯で合併時より人口で3950人、世帯数で323世帯が減少している。

**総合まちづくりセンター長** 人口問題研究所は、10年後の竹田市は2万人を切り1万8487人との推計。

**問** 全国初の農村回帰宣言の取組をはじめ各種人口増加対策にも関わらず、人口減少に歯止めが掛からない状況下、従来の施策の更なる充実強化に加え、市の農村回帰の施策と運動させた新たな施策として、以前市が川崎重工業から無償で譲り受けた広大な遊休地の宅地造成とその分譲は。

**市長** 当該地の模型もあり、造成等も検討している。以前自衛隊の総監と話す機会があり、南海トラフを視野にいった避難基地としての位置づけができれば、自衛隊による整備も、と話されていた。改めて協議の場を



▲カワサキ大分製作所跡地

持ちたい。なお、川崎重工業にも出向いて残地の譲り受けを含む当該地の有効活用に向けた協力要請を行いたい。

清風会

日小田秀之



祖母傾エコパークについて

**問** 祖母傾エコパーク認定に向けた思いと今後のプロセスは。

**市長** すばらしい自然環境を誇る久

住地域も視野に入れた竹田市全域が、人が居住する「移行地域」ゾーンに設定できないか推進協議会に提案している。認定の暁には「ユネスコエコパーク認定竹田エコミュージアム」として世界に発信していきたい。企画情報課内に「エコミュージアム推進室」を置き、認定に向けた取組を強化していく。

**市長公室長** 最も早いスケジュールとしては、平成28年の登録を目標としている。申請に伴うゾーン設定等は、推進協議会の下部組織である幹事会で検討していくことになる。

大雪災害と対応策について

**問** 今回の大雪を踏まえての課題は。

**総務課長** 四十数年ぶりの大雪ということで市民生活に多大な混乱をきたした。生活道路の早期の除雪対策や通信手段の確保、停電時の復旧の迅速化、電気暖房が使用できない場合の防寒対策など、情報の収集も含めて課題が数多くあった。今後は危機管理対策として、雪害対策についても対応策を検討し、地域防災力の強化を図っていく。

**問** 記録的な積雪により、道路の除雪に困難をきたした。反省点と課題は。

**建設課長** 雪害処理としては、倒竹木の処理や電気・通信線への倒木除去に特に時間を要した。今回のような積雪となると、復旧目途がつくに3日程度は要する。今回の雪害対応により自助・公助が極めて重要だと改めて認識しているので、諸課題について庁内で検討を重ね、今後に備えたい。



▲除雪作業(市道玉来矢倉線)

このほか、「新たな農業・農村対策」について質問をした。特に「人農地プラン」の策定については、新たな農村対策と大いに関連するので、積極的に取り組むよう要請した。

緑風会

坂梨宏之進



文化会館建設について

**問** 文化会館を建てる場所、構造は別にして、今後計画される中心市街地整備に向けて、国の有利な制度の導入について、また、文化会館は必要だという市長の思い、存在意義を聞きたい。

**市長** 特筆して言うならば、他の自



▲新図書館建設予定の旧竹田幼稚園跡地

治体間競争の中で勝ち得るのは竹田市が持っている歴史、文化、芸術の力である。そしてそのことを生み出す拠点が文化会館であり、子どもたちに「私の出身は誇りある竹田市です」と言わしめる象徴が文化会館の存在意義である。よって、竹田市にとって文化会館は必要不可欠である。また、国交省の社会資本整備総合交付金（国の補助率45%）を活用し建設したい。

図書館建設について

**問** 竹田市にとって図書館の存在はどのような位置づけ、あるいは意味を持っているのか。

**市長** 司馬遼太郎先生が小学校5・

6年生のために書いた「21世紀に生きる君たちへ」の扁額を語るに当たり、本を読む・文字にふれる・その精神性にふれるということが、いかに人間を大きく育てていくかという意味が図書館の存在意義である。

合併以前から図書館建設基金があることを考えれば、いつかは建設しなければならぬ。基金4億円を活用し、国交省の交付金事業を利用して

建てるならば今であると考え。また、中心市街地活性化のまちづくりの文教ゾーンとして主要かつ重要な施設と位置づけられる。

**その他にふるさと納税（ふるさと竹田応援寄附金）及び竹田市の農業政策（農産物の更なる6次産業化への推進）について質問した。**

新風会

阿部 雅彦



人口減少対策とニュータウン構想について

**問** 旧竹田中学校グラウンドにおけるニュータウン構想の具体的な展開をどのように考えているのか。

**市長** 地域高規格道路の残土処理地

になってこの土地を整備し、平成29年度の宅地販売を目指したい。若い世代が求めやすいようにニュータウン七里の地価の半額以下を目標に、安価な価格設定をしていきたい。



▲旧竹田中学校グラウンド

**問** 今後のニュータウン構想と移住者や市民のための住宅建築についてどのように考えているのか。

**市長** ニュータウン構想の開発適地として、旧竹田中学校グラウンドを含む四つの候補地で準備を進めている。住宅用地の準備が整うまでには、宅地取得や住宅建築に関する魅力のある特典を考えていきたい。

**問** 子育て定住支援住宅建設の継続した取組が必要ではないか。

**企画情報課長** これまでの手法と違うことも考えながら、子育て中の保護者や地域の皆さんの意見を聞き、協力を得ながら、調査・研究をして

総合的に判断していきたい。

## 教育のまちTOP運動 (SUN3) の取組について

**問** この一年の取組の成果と課題について、どのように分析しているのか。

**教育長** 学力等も伸びてきているが、広域化している人事や子どもたちにはメディアの問題もある。また、

教職員の健康については、緊張感を持って取り組む決意である。

**問** 注目されている協調学習やT授業の取組状況についてはどうか。

**学校教育課長** 子どもたちの表現力やコミュニケーション能力の向上が見られる。さらに、自分で納得のいく答えや考え方を求めていく学びの姿勢も育ちつつある。

**その他、教育のまちづくりと生涯学習の連携について質問した。**

## 新生会

山村 英治



## 公共施設建設計画について

**問** 竹田市文化会館が建設された昭和51年以降、三度被災をした同じ場所です。「発電所ダム運営のため、承役地が浸かん水および損害を受けることへの忍容」を目的とした地役権が設定された同場所に、再び文化会館・中央公民館、更に、小規模住宅を建

設する理由を問う。



▲小規模住宅建設地

**建設課長** 同地役権は、昭和46年に設定され、九州電力竹田調整堰の満水時水位から3m上昇した標高25

5mの文化会館のある標高までを承役地としてあるが、水害のあと、標高258mまで護岸を嵩上げをしたので、九州電力が地役権で想定したよりも3m高い場所まで守られるようになり、実質、地役権は消失していると認識し建設を計画した。

**問** 玉来ダム建設や、スリットダムの設置、高上げ護岸工事、流木対策と手は尽くすが、対策工事が終わらないうちに、リスクを負ってまで公共施設建設を急ぐ理由は何か。

**市長** 安全性確保の護岸工事が進み、阿蔵新橋を撤去するなど安全対策に地域の方々も一丸となっている。25〜27年度までに流木対策が行われ、平成29年度には玉来ダムが建設される。社会資本整備資金の財源は確保された。できる可能性を追求し、一日も早い完成を見ることが使命と考えている。

## コンパクトシティ構想について

**問** 現在、竹田市街のにぎわいの再

生が先行しているが、旧3町の中心街活性化構想は。

**久住支所長** 県道庄内・久住線バイパス構想を軸として、まちづくり交付金事業の一環で、学童や高齢者の集う交流施設建設、旧議場を白壁画伯の絵画を中心とした市民ギャラリーとしていく。

**荻支所長** 図書館と資料館を備えた荻駅舎をななつ星列車が止まる駅として紹介する。辻畑隆子さんに作品の展示を依頼する。支所を荻福祉健康エリアに移転することと並行して、中心街活性化構想について地域住民の声を集約する。

**直入支所長** 長湯温泉街活性化計画に基づいて取り組んでいく。国民宿舎直入荘を長湯温泉のシンボルとして湯治文化の構築をめざし、経済と観光の活性化を進める。

**そのほか、農村回帰宣言都市構想、祖母傾ユネスコエコパーク構想について質問した。**



# 一般質問

## 市政を問う

3月13日・14日、6人の議員が一般質問を行いましたので、その内容を要約してお知らせします。  
なお、原稿は質問議員本人が執筆しています。

吉竹 悟



**問** 久住高原のマラソンコースが27年度から県中学駅伝の会場となる。コースや屋外トイレ・更衣室・シャワー室の整備、国道沿いの牧柵の改修等が必要ではないか。

**教育長** 市長の所信表明にあったように、久住地域を「フランスの最も美しい村」活動やドイツの「わが村は美しくーわが村には未来がある」の竹田版として、景観部分を含め、まちづくり交付金等の活用を考慮し、27年11月の大会までに整備できないか、関係部署と検討している。特に不足するトイレは、豊の国爽やかトイレや、仮設トイレの配置、更



▲日本一のマラソンコース

衣室は、集会用テントを設置し対応を図りたい。大分県の中学生の代表的なスポーツ大会であるので、「教育のまち」らしく全力で支援する。  
**問** 入山公廟の整備と登山道の整備が必要ではないか。

**市長** 前回の質問を機に、地域振興の可能性を秘めているだけに、あらゆる観点から考察してきた。大船山の魅力は、中川家3代目当主・久清

公の廟があるという極めてストーリー性の高い歴史的価値を有していることと、南側に3本の登山ルートがあり、景観的にも個性があり、玄人好みであり、条件整備が整えば、飛躍的に魅力が増大する。今年、阿蘇くじゅう国立公園が発足して80周年、やまなみハイウエーが開通して50周年を迎える。この時代を節目に、地域振興のスタートと位置づけたい。牧野道の整備については、3ルートの最も観光登山として適したルートを選定したい。また、入山公廟の近くまでエコカーの登山バスを往復運行するという案も出されている。大船山のミヤマキリシマ保護活動が環境省・文科省・林野庁から認可されているNPO法人の「みちくさ案内人」の話では、この構想であれば国の関係機関は認可の方向で動くとのことであり、エコカーの導入は総務省の10分の10の交付金が充当できそう、道の改善・トイレの整備が実現すれば、60年来の夢が叶う。関係の牧野組合、九州山岳会・大分県山岳会とも協議し、この取組を開始する。さらに27年度のJRDステイネーションキャンペーンの重

要戦略になると考える。  
このほか、農政の補助事業について、竹田キリシタンの情報発信の必要性について質問をした。

渡辺 克己



**学校給食共同調理場調理・配送業務委託業者の変更について**

**問** 平成19年度に竹田中央学校給食共同調理場の完成により、市直営で実施してきた調理・配送部門を20年度から民間委託としてきた。21年施行の「新学校給食法」のもと、更に厳しい「学校給食衛生管理基準」にも対応し6年間が経過した。この様な状況のなか、現委託者と再契約しないとし、農村商社わかばを調理・配送委託業者に決定する旨の説明があった。現委託者が業務を行ってきた6年の期間中、重大な事故があったのか。  
**学校給食調理場長** 重大な事故の発

生はなかった。

**問** 現委託業者と26年以降の業務委託をしないとした理由は何か。

**教育総務課長** 委託業務はまず目的を達成すること、財政運営を含め健全な合理性を求める必要があることを説明し、事業者から次年度の公募に参加しないとの意思表示があったことから、契約をしないことを決定した。

**問** 随意契約については自治法施行令167条2項の何号であるか。

**教育総務課長** 3か年継続することから、(安全安心な給食提供となる)競争に付することが不利になることで6号とした。

**問** 契約は単年度契約であるが、その条項で良いのか。

**教育総務課長** 3か年は口頭で通知している。そのうえで契約をしている。

**問** 3月のこの時点で農村商社わかばが委託業者になれるのか。

**教育総務課長** 想定の話はできない。

**問** 12月9日の話し合いの中で市側から次年度以降の委託業務中止を通告したのではないか。

**教育総務課長** 委託者との協議の結果である。事業者から公募に参加しない旨の話があった。

**問** 「民業圧迫」ではないのか。事業者の職員を市が出資の「農村商社わかば」が再雇用し、給食調理・配送業務を新たに始めることは問題ではないのか。

**市長** 6年前の市が直営時の職員で現委託者は給食調理を始めたものである。協議ができたことには事業者の内部事情があった。給食業務実施は「わかば」の理事会にも諮っている。

佐田 啓一



### 文化会館の建設について

**問** 文化会館の仕様は。

**生涯学習課長** アンケート、シンポジウム、各市民団体、研究部会等の意見を参考に経済性、自然環境、安全性、利便性、バリアフリー、使いやすさ、機能性、客席数など議論を重ね、竹田市市の芸術文化を発信する中心施設としたい。

**問** 建設場所は移転すべきと思うが。

**市長** 市民の意見の中では「現在地での復旧を希望する」が最も多かった。検証会議では安全対策が確認された。魚住ダムについて、3月3日九州電力に撤去を申し入れた。九州電力は、安全対策の向上に向けて構造物の改修を検討するとの返答であった。より安全性が確保されたことから現在地での新築としたい。

### コミュニティセンターと岡城跡とまちなかの活性化に向けて

**問** 岡城のトイレ整備はいつ行うのか。また、岡城登城バスはいつから運行するのか。

**文化財課長** 2案件とも実施に向けて、今後、国・県・市の財政課と協議をするが、平成27年度以降となる。

**問** 岡城跡とまちなかの有機的結びつきをどう行うのか。

**商工観光課長** 民間の町おこしの動きが起こりつつある。岡城桜まつりや竹楽では街なかをめぐる仕組で事業展開をしている。商店街においても賑わいを創出するイベントを展開している。これらが連動していくと考える。

**問** コミュニティセンターについてあの場所を、登城線バスのターミナルとして、駐車場と土産売り場を併設し賑わいの場、まちなかの有機的結びつきの接点として活用することが有効と思うがどうか。

**市長** 都市再生計画にのっとって、城下町の観光遊覧事業をどのようにするかという議論も必要になってくるが、もう議論はいらぬ。このバスを運行したいと本当に思っているのかどうか。私は、議員が提案した方向性については絶対的にやるべきだと思っているが、観光に携わっている商店街の方々が、自ら立ち上がってやっていこうという決断をするべきだと思う。まちづくりは地域住民のやる気にかかっている。



▲コミュニティセンター建設予定の本町市有地

佐藤 美樹



**市道の安全性確保と環境整備について**

**問** 霜が張り、カーブミラーが見えなくなることによる事故が起きた。凍結しないカーブミラーがあると聞かすが、設置できないか。

**建設課長** 新設・更新箇所からステップレス製の曇りにくい製品に取り換ええていく。

**問** 市道の環境美化謝礼金は現在1mにつき2円であるが、刈払機の燃料代も高騰している。謝礼金の見直しができるか。

**建設課長** 人手不足の対策として県の小規模集落応援隊制度を活用してほしい。謝礼金額については検討したい。

**大雪時の防災対策について**

**問** 停電世帯へ告知放送やケーブル

テレビによる情報提供不能となった。今後の対策は。

**総務課長** 携帯電話の緊急速報メールや防災ツイッターの活用を進めたい。

**問** 雪害に関する救急出場件数は。

**消防長** 2月14日から3日間で計16件出場したが、直接雪害に関するものは3件。その他、病院から透析患者の搬送依頼が3件あった。

**問** 地域防災計画に豪雪の事項を盛り込むべきでは。

**総務課長** 必要だと考えている。計画の見直しを進める。

**観光政策について**

**問** 平成27年度のJRデスティネーションキャンペーンの集客目標と推進計画は。

**商工観光課長** 集客目標は30万人。今年度は観光モデルコースの設定やJRへのプレゼン準備を進める。

**市長** これまでの竹田の魅力に加え、キリシタン文化を掘り起こし、海外戦略の核とする。このキャンペーンを観光振興の正念場と捉えている。



▲積雪時の荻町中心部の様子

**問** 花水月対面のバス停に雨よけを設置してはどうか。

**商工観光課長** 前向きに検討を進める。

**その他、公共温泉施設料金の統一化について質した。**

森 哲秀



**農業問題について**

**問** 今年農業政策が大きく変わるが

**市の取組は。**

**農政課長** 政府は、農林水産地域域の活力創造プランを取りまとめ、農業を足腰の強い産業として行くための産業政策と農業農村の有する多面的機能の維持を図るため、地域政策を車の両輪として推進し、関係者が一体となって課題解決に取り組む。

農業の所得を今後10年間で倍増させる目標を立てている。具体的に①農地管理機構を創設し担い手への集積化を進める。②経営所得安定対策は、26年度米より半減し29年度米で廃止する。③主食用米偏重でなく麦・大豆・飼料用米等、需要のある作物への誘導を図り、農業者の経営判断で作物を選択できる。④日本型直接制度を創設し、地域コミュニティの協同管理等により農地を維持し、将来にわたり多面的機能が十分発揮されることを確保し規模拡大に取り組み、担い手の負担を軽減し構造改革を維持する。国策に沿って農業政策を進める。

**問** 畜産振興について現在の状況と今後の取組は。

**畜産振興室長** 東日本大震災や口蹄疫の影響、安愚楽牧場の倒産・高齢



▲平成25年度竹田市畜産共進会

化によるリタイヤ等により全国的に素牛が減少していることが大きな要因で全国で高値取引が続いている。市場出品している子牛の種雄牛は70%が県外で、県内は30%となっている。現在、県内産優秀種雄牛が数頭誕生している。今後は、県外に種の試験譲渡を行い、繁殖や肥育データを収集し、県内産種雄牛をPRし優秀な子牛を作る。但馬種雄牛利用促進保留事業の活用等で、繁殖農家母牛の血統改善を進める。

**問** 大雪による農業被害対策は。

農政課長 新しいシステムによる気

象情報をこまめにチェックし、考えられる被害を伝え、災害が最小限になるように図って行く。

**問** 除雪は、幹線道路が優先され、生活道路の復旧が遅れた。地区で除雪をした費用を市が負担しては。

建設課長 自治会での除雪で、経済的負担が個人に生じている。費用の市負担について現在検討している。



**問** 新規建設予定の公共施設の建設に伴う、市財政状況の展望について

財政課長 財政面での要因が大きいと思うが、合併の趣旨を確認したい。

国や地方の財政状況の悪化に伴い、地方財政制度が見直されるようになった。また地方分権社会移行により、自治体の行政能力の質的・量的向上が必要になった。人口の減少により税収が減少してきた。しかし一方で保険や医療、福祉など

財政需要が増大、また合併前それぞれの自治体で整備された大型の公共施設の老朽化に伴う修繕費や維持管理費が大きな財政負担となってきた。

こうした状況から財政基盤の強化が必要となった。



**問** 合併の趣旨に沿った財政運営がなされているか。

財政課長 平成24年度の決算額と合併当時の新市建設計画を比較すると、歳入においては計画を上回っており、歳出では計画を下回っている。また職員の数も合併当時522人いた職員が、昨年4月の段階では390人と計画以上の削減ができて

いる。

**問** 新規建設予定の公共施設を維持

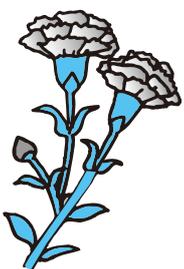
するのにかかる費用と歳入のバランスは今後どうか。

市長 大局観をもって対応していかなければならない。あまり使われなくなった施設等は閉鎖あるいは売却が基本。指定管理されている施設については、所期の目的に達しているものは大ナタを振るわなければならない。

今まさに転換期に来ている。市が持っている施設を洗い直し議論を深めていく。具体的ではないが、思い切って整理する目的をもって、平成26年から専門知識を持った人材を登用しながらふるいにかける。

財政課長 公共施設は、多くが非採算部門であるがゆえに行政が担わなければならない。しかし、必要最小限の経費となるよう施設づくりに努める。

その他、災害に強い組織づくりとして、今年の二月に降った大雪の被害やその後の対応などについて質問した。





# 予算特別委員会を終えて

予算特別委員会 委員長 坂梨宏之進

予算特別委員会

第1回定例会・予算特別委員会が3月18日・26日の両日で開催され、付託された一般会計予算を慎重審査した結果、全会一致で可決されました。

## 平成26年度 竹田市一般会計予算(当初) について

平成26年度竹田市一般会計当初予算総額は、192億3170万円であり、災害復旧費の計上が大きかった前年度当初予算額と比べて15億4120万円の減額となった。

歳出の主な内容は、**総務費**では、地域おこし協力隊の活用に3591万6千円、本庁舎空調の改修に7452万5千円等を計上。**民生費**では、4月から消費税率が引き上げられることに伴い、その緩和策として「臨時福祉給付金」1億220万5千円、及び「子育て世帯臨時特例給付金」2186万2千円の給付等を計上。**衛生費**では、平成26年度から衛生センターの運営を民間委託することに伴う業務委託料2292万9千円等を計上。**農林水産業費**では、次世代を担う園芸産地整備事業費(トマトハウス建設)4億346万6千円、肉用牛大規模経営体事業費補助金5110万1千円、有害鳥獣被害防止対策事業費348万2千円、特用林産物生産振興事業費43

79万7千円、農地の県営土地改良事業等基盤整備事業費2億5474万2千円等を計上。**商工費**では、直入荘大規模改修のため、直入荘事業特別会計繰出金4億1250万円等を計上。**土木費**では、社会資本整備総合交付金事業を活用した市道新設改良事業費3億4807万円、地域住宅支援事業2億6362万1千円等を計上。**消防費**では、新消防庁舎建設事業等2期工事費2億3665万6千円、消防救急無線デジタル化整備事業費4億35万9千円等を計上。**教育費**では、新図書館建設事業費4862万6千円、文化会館建設計画策定等に係る経費6557万円等を計上。**災害復旧費**は、9億5382万2千円を計上。**公債費**は、22億7345万8千円を計上している。

歳入では、市税17億8205万円、地方交付税87億3千万円、国庫支出金18億3059万円、県支出金23億2241万7千円、繰入金17億4629万6千円、市債11億8120万円等を計上している。

このほかに平成25年度竹田市一般会計補正予算の審議を行った。

## 議会を傍聴に いらっしゃいませんか

所定の受付簿に住所・氏名等を記入するだけで、本会議や各委員会を傍聴することができます。どうぞ、お気軽においでください。また、ケーブルテレビでも定例会初日の提案理由の説明と、一般質問及び代表質問の中継を行っています。



# 平成26年 第1回定例会

平成26年3月5日～26日

議案・請願・陳情・意見書案等の議決結果

議決結果

予 算 案		
議案番号	件 名	結果
議案第2号	平成25年度竹田市一般会計補正予算(第9号)について	可 決
議案第3号	平成25年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計補正予算(第3号)について	可 決
議案第4号	平成25年度竹田市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)について	可 決
議案第5号	平成25年度竹田市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第6号	平成25年度竹田市介護保険特別会計補正予算(第4号)について	可 決
議案第7号	平成25年度竹田市簡易水道事業特別会計補正予算(第4号)について	可 決
議案第8号	平成25年度竹田市農業集落排水事業特別会計補正予算(第4号)について	可 決
議案第9号	平成25年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計補正予算(第3号)について	可 決
議案第10号	平成25年度竹田市国民宿舎久住高原荘事業特別会計補正予算(第1号)について	可 決
議案第11号	平成25年度竹田市国民宿舎直入荘事業特別会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第12号	平成25年度竹田市水道事業会計補正予算(第4号)について	可 決
議案第13号	平成26年度竹田市一般会計予算について	可 決
議案第14号	平成26年度竹田市立こども診療所特別会計予算について	可 決
議案第15号	平成26年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計予算について	可 決
議案第16号	平成26年度竹田市国民健康保険特別会計予算について	可 決
議案第17号	平成26年度竹田市後期高齢者医療特別会計予算について	可 決
議案第18号	平成26年度竹田市介護保険特別会計予算について	可 決
議案第19号	平成26年度竹田市簡易水道事業特別会計予算について	可 決
議案第20号	平成26年度竹田市農業集落排水事業特別会計予算について	可 決
議案第21号	平成26年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計予算について	可 決
議案第22号	平成26年度竹田市国民宿舎久住高原荘事業特別会計予算について	可 決
議案第23号	平成26年度竹田市国民宿舎直入荘事業特別会計予算について	可 決
議案第24号	平成26年度竹田市水道事業会計予算について	可 決
議案第49号	平成25年度竹田市一般会計補正予算(第10号)について	可 決
条 例 案		
議案番号	件 名	結果
報告第1号	専決処分事項「竹田市立幼稚園設置条例の一部改正」について	承 認
議案第26号	竹田市特別職の常勤職員の給与に関する条例の一部改正について	可 決
議案第27号	竹田市職員の退職手当に関する条例等の一部改正について	可 決
議案第28号	竹田市荻駅交流館条例の制定について	可 決
議案第29号	竹田市基金条例の一部改正について	可 決
議案第30号	竹田市消防長及び消防署長の任命資格を定める条例の制定について	可 決
議案第31号	竹田市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正について	可 決
議案第32号	竹田市手数料条例の一部改正について	可 決
議案第33号	竹田市火災予防条例の一部改正について	可 決
議案第34号	竹田市分担金徴収条例の一部改正について	可 決
議案第35号	竹田市あざみ台展望所「スカイパークあざみ台」条例の廃止について	可 決
議案第36号	竹田市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正について	可 決
議案第37号	竹田市特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について	可 決
議案第38号	竹田市心身障害者福祉手当条例の廃止について	可 決
議案第39号	竹田市へき地教職員住宅条例の一部改正について	可 決
議案第40号	竹田市体育施設条例の一部改正について	可 決
議案第50号	竹田市職員の給与に関する条例の一部改正について	可 決
議案第51号	竹田市コミュニティバス運行条例の一部改正について	可 決
議案第52号	竹田市市営住宅条例の一部改正について	可 決
一 般 案		
議案番号	件 名	結果
議案第41号	普通財産の減額貸付けについて	可 決
議案第42号	財産の無償譲渡について	可 決
議案第43号	竹田市荻駅交流館の指定管理者の指定について	可 決
議案第44号	市営住宅の指定管理者の指定について	可 決
議案第45号	社会福祉センター等の指定管理者の指定について	可 決
議案第46号	保育所の指定管理者の指定について	可 決
議案第47号	竹田市祖母山麓体験交流施設「あ祖母学舎」の指定管理者の指定について	可 決
議案第48号	市道路線の認定について	可 決
議案第53号	工事請負契約の締結について	可 決
人 事 案		
議案番号	件 名	結果
議案第25号	竹田市固定資産評価審査委員会委員の選任について	同 意

請願・陳情・意見書案		
議案番号	件名	結果
請願第1号	「四国電力伊方原子力発電所再稼働を考え直すこと」及び「脱原発に向けた政策の実行」を求めた国への意見書提出に関する請願	採択
請願第3号	「日本ジオパーク」申請に関する請願	採択
陳情第1号	「城下町再生プロジェクト」に関する陳情	継続審査
意見書案第1号	「四国電力伊方原子力発電所再稼働を考え直すこと」及び「脱原発に向けた自然エネルギー政策促進の実行」を求める意見書	可決

■賛否一覧表

※賛成・反対の双方があった場合のみ表示しています。

議案番号・件名	議員名(議席番号順)														審議結果			
	佐藤美樹	鷲司英彰	山村英治	阿部雅彦	渡辺克己	岩屋千利	徳永信二	佐田啓二	日小田秀之	坂梨宏之進	森哲秀	加藤正義	吉竹悟	本田幸忠		和田憲幸	後藤寛康	足達憲史
請願第2号 特定秘密保護法の廃止を求める意見書の採択を求める請願	○	●	●	○	●	●	●	○	○	●	○	●	●	●	○	○		少数不採択
平成25年陳情第2号 都野山村広場への道路に関する陳情	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○			少数不採択

※議長は表決に参加しないため、表決結果は空欄

表の見方…○：賛成 ●：反対



岡城桜まつりに  
参加しました！

第66回岡城桜まつりの「大名行列」は、40周年の節目を迎え、多くの観光客と市民の皆様で賑わう城下町を勇壮に練り歩いた。議会からは、中村議長、鷲司議員と山村議員が参加。竹田の街なかで行われるこの風物詩は、歴史と伝統の素晴らしいさを感じることでできる大切な取組として続けられている。同時に開催された「岡城武者揃え」の武者行列も竹田らしい取組であり、今回は熊本県葦北鉄砲隊や騎馬武者も登場し、大いに盛り上がりを見せた。私も甲冑武者として行列に参加。心地良い汗と共に、清々しい気持ちと満足感を味わえた一日となった。

編集委員 阿部 雅彦

あとがき

postscript

市議会 ホームページ

本会議の会議録や議会の日程、質問項目、議会のしくみと役割など様々な情報を掲載しています。



竹田市議会 検索  
http://www.city.taketa.oita.jp/gikai/